

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成20年11月20日
調査実施の時間	開始10時30分 ~ 終了15時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 天望台 (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名	藤田 泰洋
	氏名	腰 高行
事業所側対応者	職名	管理者
	氏名	小林 忍
ヒアリングを行った職員数		4 名

※記入方法 <ul style="list-style-type: none">●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。
※項目番号について <ul style="list-style-type: none">●外部評価項目は30項目です。<ul style="list-style-type: none">○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。
※用語について <ul style="list-style-type: none">●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4699200012号		
法人名	(株)グループホーム天望台		
事業所名	グループホーム天望台		
所在地	鹿児島県大島郡天城町瀬滝677-1 (電話) 0997-85-4722		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月20日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤9人, 非常勤0人, 常勤換算8.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円— 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円— 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 5 名	女性 4 名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 82 歳	最低 65 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳之島診療所、椋山歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

徳之島で一番新しく開設されたグループホームである。運営者・管理者・職員が一体となり新たなホームの形づくりに取り組んでいる。地域に密着したホームとして、大通りに面し近隣との交流もしやすい状況にある。広々としたリビングホールや廊下には、ソファ・椅子が配置され、民具や展示物で馴染みの環境づくりがなされており、入居者がゆったりとその人らしい生活を展開している。9人中5人が男性の入居者で、2組の夫婦という入居者構成で、三味線を弾く人や唄う人など、それぞれが特技を発揮し楽しい時が流れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が第1回目の外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を全ての職員に説明し、項目ごとに意見を聞きながら、自己評価をまとめた。検討の中で、「利用者の力を活かす」ことについてなど新たな気づきがあり、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの運営状況やグループホームの意義などを説明し、意見や要望などを聞いている。グループホームに対する慰労や感謝の言葉が多く、意見や要望は見られなかったが、更に向上するよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を開き、意見・不満・要望等を聞くようにしている。また面会時や電話などで何でも気さくに話せるようにし、出された意見等は運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者の親戚や運営者夫妻の友人知人・近隣の人等が気軽に尋ねてきて、声かけをしたり交流している。また地区の運動会やゲートボール・農業祭などを見物に出かけたりして交流を図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今まで生きてきた生活を続け、穏やかに暮らしていくことを支える」を理念の柱の一部として、地域の中で生まれ、育ち、生活してきたその人となりの生活そのものを大きく支援していくことを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者・管理者は毎月の職員定例会議で、対応の仕方や支援のあり方について、振り返るように指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の親戚や運営者夫妻の友人知人・近隣の人が気軽に尋ねてきて、声かけをしたり交流している。また地区の運動会やゲートボール・農業祭などを見物に出かけたりして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員に説明し、項目ごとに意見を聞きながら、自己評価をまとめた。検討の中で、「利用者の力量を活かす」ことについてなど新たな気づきがあり、サービスの向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3回開催している。ホームの運営状況やグループホームの意義などを説明し、意見や要望などを聞いている。グループホームに対する慰労や感謝の言葉が多く、意見や要望は見られなかったが、更に向上するよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の指導や助言のもとで運営の基礎作りをしてきた。基本に則った質の高いサービスの提供に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者の暮らしぶりや職員の異動等は、毎月「グループホーム天望台便り」を発行し、それぞれの家族に報告している。健康状態は、個々に面会時や電話などで緊密に連絡している。金銭管理をしている利用者は1人あり報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	創立日の記念行事である「七夕祭り」と敬老会に家族を招き、家族会を開き、意見・不満・要望等を聞くようにしている。また面会時や電話などで何でも気さくに話せるようにし、出された意見等は運営に反映している。		役場から第三者委員の設置の助言を受け、検討中とのことであるが、早期の実現を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職場の勤務条件や待遇にも配慮し、働きやすい、充実感のある職場作りに力を注ぎ、離職者の少ないグループホームにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得には、受験のための旅費も運営者が負担するとの提言もあり、職員を育てる取り組みをしている。職員は向上の機会と受け止め、計画的な参加を話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奄美地域グループホーム研修会に所属し、管理者・職員の交流をしている。また島内の他のグループホームの職員との交流も行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居のつもりで来園して、気に入ってそのまま入居となるなど、できるだけ馴染みながらのサービスの開始となるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の方言である島口（シマグチ）や古謡の歌詞やその意味を教えてもらったり、職員が考え事をしていて、おやつを持ってきてさりげなく慰めてもらうなど、本人から学んだり、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどの人が意思表示はできるが、深い思いや意向の把握は、本人によりそいながら行動やしぐさ・家族からの話・職員間の情報交換などで汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント・担当者会議・モニタリングなどの手順を踏んでいる。本人の意向・特質を把握すると共に、家族の意向を聞き、スタッフのカンファレンスを通して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を目途に見直しをしているが、健康状態や一般状況の変化時には評価の見直しをして、状況に即した計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診・通院の支援や自宅訪問支援、外泊支援、墓参など持てる機能を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの定期的な往診もあるが、家族と話し合い、本人や家族の希望に即した医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では、看取りはしないという方針であり、家族等にも話してある。重度化についてはどのレベルまで対応するかは今後職員や関係者で煮詰めていく段階である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	整容・排泄・食事・入浴等のサービス場面で、プライバシーや誇りを傷つけないようさりげなく支援をしている。職員は採用時に守秘義務の誓約をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合により、業務中心にならないようにしている。個々人の希望や体調により、状況に即して起床・入浴・食事・就寝などその人のペースに合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週1回の献立作りで、要望を聞き、好みのメニューを取り入れている。3人の調理師が交互に腕をふるって四季折々の食材を活かした料理を利用者と共に作っている。職員も一緒に楽しみながら食べ、後片付けも共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大きな浴場に、2人位づつ一緒に入浴するなど、ゆったりと入浴を楽しんでいる。入浴日は一応決まっているが、希望により入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、炊事の下拵え、部屋の片付け、犬の世話などの役割や、三味線を弾いたり、島唄を歌ったり、ドライブに出かけるなどの楽しみごとや気晴らしなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や隣接した地域への交流・買い物・ドライブなど、外出への支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	このホームでは鍵をかないことが当然となっており、日中は鍵をかけていない。入居者は自由に出入りできるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火・避難訓練は年2回消防署の協力のもとで実施をしている。近隣に協力員10人を依頼している。災害時に備えて、自家発電機を備えるなどの対応もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭食という想定で、栄養バランスのある食事を提供し、水分の摂取にも配慮している。看護師の管理のもとで脱水症状を起こさないように、健康状態や身体状況にも配慮した細やかな支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングホールや廊下には、ソファや椅子が配置され、民具や展示物で馴染みの環境づくりがなされており、自然の採光や風通しなど土地の生活環境を移しこんだ工夫がなされ、居心地良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホーム側で配置しているが、家族が手作りのベッドを持ち込んでいる人もいる。自宅から馴染みの小物入れなどや子ども・孫からの贈り物などを飾ったりして居心地よく安心して暮らせるような居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。